 情報科学芸術大学院大学附属図書館

vol. 13

2019.7

IAMAS 図書館便り

IAMAS [イアマス] とは、情報科学芸術大学院大学の英語表記の頭文字を取った略称です。



特集 デザイン ジェームズ・ギブソン

→自作を語る／思い出の一冊／学生に薦める一冊

- 図書館を活用する

特集 デザイン ジェームズ・ギブソン

この特集では、IAMASの教員に、自著・思い出の一冊・お薦めの本などを紹介してもらいます。第13回は、ジェームズ・ギブソン准教授です。



→自作を語る

Notes on Living Outside Cultural Norms. Reset the mind. (<https://medium.com/>)

1冊選ぶなら『アイデアスケッチ』（BNN新社）を取り上げるべきだろうけど、この本はすでに2回紹介されているので、別のものを取り上げよう。それは最初多くの人たちと一緒に「Hi.co」というウェブサービス上に2015年に書いたものだ。Hi.coは、文章と写真にフォーカスしたウェブサービスで、自然と何か書きたくなる時をサポートするために創られ、書き手たちが気取らずにものを書けるように促す設計がされていた。Hi.coは次のように始まっていた。

ようこそHiへ。Hiは、世界を探検し、イメージと文章によってその体験を共有する作家、ジャーナリスト、日記の書き手、イラストレーター、写真家、旅行者、詩人、そして音楽家のコミュニティです。

残念なことというか幸運なことというか（それをどう見るかによるけど）、このサービスは2016年に終了した。しかし、サービスを終える前に1つの驚くべきことをやってみせた。1冊の本を作ったのだ。本がどうやって作られるかを知らないと、本を作ることなんてたいして特別なことではないと思うかもしれない。彼らは2×2イン치의ニッケル板の上に顕微鏡イオンエッチングという手法を使って印刷したんだ。1万年は火からも海水からも耐えられるようにして。5冊作り、そのうち1冊はワシントンD.C.にある（世界最大級の図書館である）議会図書館に保管してあって、顕微鏡を使って読むことができる。僕はHi.coがこの本のことを次のように書いているのが好きなんだ。

この板はメディア（media）ではない、1つのメディウム（medium）なんだ。

僕が書いたものを見つけるために議会図書館にまで行く必要はない。Medium.com (<https://medium.com/>) で読めるからさ。タイトルは「Notes on Living Outside Cultural Norms. Reset the mind.」だ。

→思い出の一冊

石川直樹著『Lhotse ローツェ』

僕に何年にもわたって影響を与えた本はとてたくさんある。僕が読むあらゆる本は何かの方法で影響を与えてくるといってもいい。Audible.comをいうサービスを使っていつも僕は本を読んだり聴いたりしている。オーディオブックを聴くことがとても有効な読書法だと気づいてからは、ドライブ中だったり、料理をしている間だったり、なかでもウォーキング中に聴いている。この方法にしたことで、より多くの本が読めるだけでなく、紙の本を持たなくてもよくなった。

最近読んだ本を挙げると、マハトマ・ガンディーの『健康入門』（未邦訳）、カル・ニューボートの『デジタルミニマリズム』（未邦訳）、デイヴ・エガーズの『驚くべき天才の胸もはりさけんばかりの奮闘記』（文藝春秋）、ユヴァル・ノア・ハラリの『21世紀に向けた21の教訓』（未邦訳）、グレッグ・マキューンの『エッセンシャル思考』（かんき出版）、ジェディディア・ジェンキンスの『眠っている自己を揺すぶれ』（未邦訳）、バラマハンサ・ヨガナンダの『あるヨギの自叙伝』（森北出版）。どれも薦めできる本だ。

紙の本を買うことだってある。一番最近だと、石川直樹の『Lhotse ローツェ』（SLANT）だ。ヒマラヤ遠征を描写する石川の写真と言葉が載った美しい本のシリーズのなかの1冊だ。これらの本は本であること自体が素晴らしく、所有して何度も繰り返し読みたいと思えるタイプの本だ。iPhoneを見るのをやめて外に出て、今度は自分が冒険したくなる気にさせるタイプの本だ。

→学生に薦める一冊

ユヴァル・ノア・ハラリ著『21世紀に向けた21の教訓』（未邦訳）
ダニエル・ピンク著『When 完璧なタイミングを科学する』

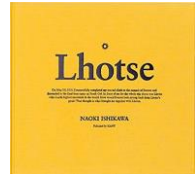
10冊は本を推薦できるけど、いまは2冊にしよう。2冊にしたのは1冊が英語だからだ。1冊目はユヴァル・ノア・ハラリの『21世紀に向けた21の教訓』（未邦訳）。ハラリの『サビエンス全史』『ホモ・デウス』（ともに河出書房新社）は日本語に訳されているけど、僕はまだ読んでいない（僕のウィッシュリストには載ってるけどね）。

『21の教訓』は「第1章 幻滅」から始まり「第21章 瞑想」までの21の章から成っている。途中の19の章は、仕事の未来、AI、創造性、平等、人間性、ソーシャルメディア、フェイクニュース、神、SFなどのトピックを扱っている。

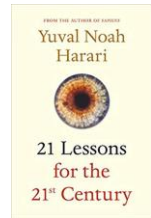
恐ろしいのは、われわれがAIの発展にとても多くの投資をおこなう一方で、人間の意識の発展にはほとんど投資を行わないなら、非常に複雑化した人工知能は、人類が生まれ持った愚かさを増大させることにしか役立たないかもしれないということだ。（『21の教訓』）

2冊目は、ダニエル・ピンクの『When 完璧なタイミングを科学する』（講談社）。この本は読みやすく、洞察に富み、有益で、仕事や人生に関すること、1日のなかで髪を切りに行くのに最適な時間を教えてくれる。冗談はさておき、ピンクは、1日、1年、一生のリズムについて驚くべき真実を述べていて、それが仕事の仕方や生き方を立て直す手助けをしてくれる。この本を読むと、集中して仕事をしたり会議をしたりするのに最適な時間が分かるし、午後に再び医者を訪ねるようなことはなくなるだろう。面白そうでしょ。

午後は、1日のなかのパミュダ・トライアングルだ。谷の時間帯は、多岐にわたる領域で、生産性や倫理、健康にとっての危険地帯に当たるのだ。（『When』邦訳69ページ）。



SLANT / 2013年



Jonathan Cape
/ 2018年



講談社 / 2018年

図書館を活用する その7 専門図書館を利用する

図書館といえば、市立や県立の公共図書館、小中学校や高校の学校図書館、大学に附属する大学図書館が思い浮かぶだろう。しかし、図書館の種類には、これら3つの種類のほかにもう1つ、専門図書館がある。

専門図書館とは、「特定の専門主題領域の資料を収集・整理・保管して、その専門領域の利用者の利用に供する図書館」（日本図書館協会『図書館用語集』）をいう。たとえば、旅行に関しては日本交通公社が設置する「旅の図書館」、食文化に関しては味の素が設置する「食の文化ライブラリー」がある。また、自治体の議会に設置されている議会図書室も専門図書館に含まれるし、美術館や博物館のなかのライブラリーも専門図書館である。

専門図書館を網羅的に知るのに役立つ資料として専門図書館協議会が刊行する『専門情報機関総覧』がある。ほぼ3年ごとに刊行されるこの『総覧』には、特定の分野の資料を重点的に収集している大学図書館などを含めて、国内の1,600を超える専門情報機関が収録されている。巻頭には、主題分野別や重点収集資料別の索引があり、関心のあるテーマの専門図書館を探すことが可能である。

『総覧』で「芸術・美術」を専門とする図書館を調べてみよう。主題分野別索引では、「芸術・美術全般」のほか、「写真・カメラ」「映像・映画・演劇」「アニメ・マンガ」など特定の分野からも探すことができるようになってきている。写真の専門図書館としては東京都写真美術館図書室、映像では松竹大谷図書館、アニメ・マンガでは京都国際マンガミュージアムなどが掲載されている。

専門図書館の利用にあたっては、利用条件を確認しよう。専門図書館はあくまでも設置している企業や研究機関のための図書館であるので、図書館によっては利用に制限があったり、一般に公開していないところもある。『総覧』に掲載されている情報のほか、Webサイトなどで最新の情報を確認し、必要ならば事前に問い合わせをしておこう。公共図書館や大学図書館では所蔵していない貴重な資料に出会えるかもしれない。



専門図書館協議会
/2018年

■開館時間 月～木 10:15～19:00 / 金 11:15～20:00

■休館日 土曜日・日曜日・祝日、年末年始、臨時休館日（蔵書点検など）

■貸出

- 学生 20冊・3週間以内
- 卒業生 5冊（図書のみ）・2週間以内
- 学外者 2冊（図書のみ）・2週間以内

<学外の方の利用資格>

- ・岐阜県在住・在勤の高校生以上の方
 - ・東海地区大学図書館協議会加盟大学の学生
- ※自習目的のご利用はお断りいたします。

